

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000033		
法人名	社会福祉法人大和福祉会		
事業所名	グループホームやまとの里		
所在地	山口県光市大字岩田267番地		
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果市町受理日	平成24年8月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年6月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

疾病などによるADLの低下以外で認知度のUPやADLの低下がないように生活全般を通してうまく援助ができています。利用者のご家族の意向を聴取し、よりよいご家族との関係を保っていただけている。施設はまったく新しい開放的な環境の中で、自宅ではないがここもいい。安心して楽しいと良い居場所になっている。

利用者一人ひとりに配慮した言葉かけや対応の工夫をされ、利用者全員が入浴を楽しめるように支援しておられます。職員の提案で木曜日を入浴しないで、利用者との関わりを深める日と決め、利用者に寄り添い、レクリエーションや、外食、外出を企画し、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごされるように支援されています。家族の面会が多く、毎日訪問される人や、宿泊される人もあり、家族と職員の信頼が深まり、利用者が安心して暮らせるよう支援をしておられます。ヒヤリはつとが発生した時には、報告書に記録され、次の日に事故防止検討会議を行い、対応策を話し合っ全職員で共有を図られ、一人ひとりに対応した事故防止に取り組まれておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者および職員は毎日出勤時、就業前に理念を確認し実践している。	地域密着型サービスとしての理念をつくり、事業所内に掲示し、朝、夕の申し送り時に理念を確認する他、業務の中で、その都度、確認して、共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会など本人の自治区で参加できるよ支援している。	隣接している法人のデイサービスセンターに出かけ、行事に参加したり、幼稚園児との交流をしている。ボランティア（日本舞踏、フラダンス、ギター・尺八・琴の演奏など）の来訪があり、交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は同福祉会のGHにて地域交流会を実施参加した。今年度中に当施設内で地域交流会を開催できるよ取組中である。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	理解して取り組んでいる。	全職員参加でのミーティングを行い、評価の意義について理解した上で、一つひとつの項目について話し合い、自己評価をまとめている。目標達成計画に沿って、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催し、議題内容によって参加して頂く方を考慮してご意見やご協力をあおいでいる。	2ヶ月に1回開催し、現状や活動、行事などを報告し意見交換をしている。出た意見をサービス向上に活かすように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小さなことでも相談できる協力関係を築けている。	運営推進会議の他、市の担当課には出向いて情報交換や相談をし、助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、拘束衣や抑制帯はしない。最低限度の安全確保のベツ柵にとどめている。	職員は身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックなど気づいたら、職員同士がお互いに注意あっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで介護抵抗や暴言暴力のある利用者への接し方を話し合い虐待防止を学ぶ機会をもうけている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同福祉会GH入居者のケースを例に園内研修をおこなっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得していただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	24時間の受付体制と第三者委員を選出し外部者へ相談または苦情を申し立てられるようにしている。	面会時や運営推進会議で意見を聞く他、毎月、請求書を送付の際、事業所だよりと一緒に個別の便りを送り、家族から意見を聞くようにしている。出た意見は運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞き出来る限り繁栄できるよう心がけている。	2ヶ月に1回の全職員参加のミーティングの他、日常の業務の中で、職員から意見や提案を聞いている。職員の提案で、木曜日の入浴を中止し、利用者とゆっくり関わられる日にしたり、月2回のレクリエーションで、戸外に出かける行事を企画して起案書として提出し、実現させるなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもってはたらくことができるようにつとめている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、外での研修に参加できる機会をもち、疑問や不安は直ちに解消できるようなかわっている。	外部研修は情報の提供を行い、法人内研修(4回)への参加や、内部研修はミーティングの中で2回実施している。日常業務の中で、ケアについて改善点など職員間で意見を出し合い、働きながら学んでいる。	・研修の機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の介護職員を受け入れる体制をととのえている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接し本人の要望を聴取して受入れ体制を整えている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望は傾聴し意向に沿えるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望から支援方法を見極め職員が対応できるようにつとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないところの援助をおこない、できるところはやっていただける関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の本人への思いを大切にしておかかわっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会していただきなじみの場所へのお誘いが実現できるよう援助している。	利用者が住んでいた地区の敬老会への出席や、お寺のお茶会への参加など職員が同行して支援している。家族の協力を得て、外出、外泊、法事や葬儀への参加の支援や、病院受診の時、馴染みの場所を通るなどしている。知人や友人の訪問があるなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助けあって生活できるよう職員がかかわっている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意向を聴取して日々の生活で本人の意向を把握するようにしている。	基本情報シートやケアチェック表を活用し、日常の関わりの中で利用者の言葉を個人記録に記録して思いの把握に努めている。困難な場合は、表情や行動から推し測り、日常を記録に残して、職員間で共有して支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネージャー、本人、家族から情報収集につとめている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で意見を共有することで現状の把握につとめている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施し本人や家族の意向を職員同士で意見を出し合って現状に即したケアプランを作成している。	2ヶ月に1回のミーティングの中でケアカンファレンスを行い、利用者の状態について話し合う他、家族の意見を参考に、管理者、計画作成担当者、職員等で担当者会議を行って介護計画を作成している。3か月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録や日誌を充実させ、申し送りノートを活用して職員間で情報を共有し実践につなげている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関にとらわれず本人の身体状況に応じて受診先を考慮している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同福祉会デイサービスと連携してボランティアや保育園児の慰問をうけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態報告を協力医療機関と密にし、本人、家族の意向を確認しながら、医療がうけられるよう支援している。	かかりつけ医や協力医療機関への受診を支援している。専門医への受診で家族が付き添う場合は、情報提供表を医師に提出している。ターミナルの利用者には医師の往診もある。法人の統括管理者(看護師)と事業所の看護師が日常的に利用者に関わっており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、時間を決めて看護師に状態報告を行い利用者が適切な医療を受けることができるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は付き添い情報提供書にて入院前の状態を報告。医療方針などの把握と退院後は、サマリーを通して経過や留意点を把握している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際に終末期ケアが必要になったとき、家族の思いを確認し、医師、看護師、スタッフのチームケアで本人、家族の意をくみ取った終末期ケアになった。	契約時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を家族に口頭で説明している。実際に重度化した場合は、書面による同意をもらい、状況の変化があるごとに家族、医師、看護師、職員等で話し合い、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	危険予知訓練を行い、一人一人の注意すべき点を話し合っている。マニュアルを作り1年に1度検討している。	ヒヤリはっと報告書に記録し、次の日に事故事例、ヒヤリはっと事例などの事故防止検討会議を行い、職員間で共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は年2回実施している。地震・水害についての訓練は未実施である。	法人全体で実施している年2回の火災時避難訓練に参加している。運営推進会議で地域の協力を働き掛けているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間として尊厳を失わないような対応にこころがけている。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。利用者一人ひとりに合わせた対応を心がけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切にし、自己決定を尊重するようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の都合に合わせるのではなく本人のペースに		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の希望があれば毎日入っていただき、洋服選びのコーディネートも尊重している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際の席や盛り付けを行い役割をもつていただいている。	食事は併設施設からの配食を利用している。利用者はお盆拭き、テーブル拭き、下膳、コップ洗いなど、できる事を職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、同じものを食べながら会話を楽しんでいる。月に1回のおやつづくり(梅もち、桜もち、ホットケーキなど)や、外食、お弁当を購入しての外出、事業所の前庭での食事など、食べることが楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好を考慮し食事摂取量のチェックや水分補給に気を配っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い無理なく職員が介助できる援助をおこなっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	不必要な紙オムツ・パットの使用はしない。日中はなるべくトイレ誘導を行い排泄の自立への支援をおこなっている。	チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、同時刻に1日の排泄のチェックを行い食生活や内服薬などの排便コントロールをおこなっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴したいという希望に沿うようにしているが、受診などがあり、時間帯は希望にそえるとは限らない。	木曜日以外の9時から11時30分まで毎日入浴が可能で、希望に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。入浴したくない人には、タイミングや声かけなど工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入室され最低限度の法室での状態確認にとどめ、一人の時間がもてるようにかかわっている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服薬情報がいつでもみれるようにしてあり、内服薬について職員全員が把握している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人、一人がもてる力を発揮できるよう支援している。	新聞や本を読む、テレビ視聴(スポーツ、時代劇など)歌、スケッチ、風船バレー、玉入れ、輪投げ、ボーリング、テーブルホッケー、体操、パズル、カルタ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お盆拭き、テーブル拭き、草とりなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いを持って日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を家族に伝え、家族による実現やレクや行事などにくみいれて外出できるように支援している。	法人の敷地内にあるお地藏様(6体)へのお参りや、周辺の散歩、季節ごとの花見、外食の他、受診の際に、利用者の馴染みの場所へのドライブを兼ねるなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理ができる利用者がおられず、金銭管理は苑側でおこなっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀ハガキ・暑中お見舞いは定期的にだしており、希望があれば沿うようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を取り入れた掲示板の飾りつけを利用者とともに工夫している。	共用空間は広々として、大きなガラス窓から自然の明かりが差し込み、音や温度、湿度、換気に配慮している。窓から季節の移り変わりを眺めることができ、壁面には季節に合わせた作品を飾り、季節の花を生けるなど、利用者が室内にいても季節感を感じることができるよう支援している。リビングは利用者が安全に動けるように配慮し、あちらこちらに椅子やソファを配置して、利用者がどこにでも座っても休めるようにし、テレビを視たり、気の合った利用者同士で話したり、それぞれがくつろげるようにして、居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内のあちこちに利用者がくつろげる小スペースの空間をもうけている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは今まで本人が愛用されていたものを持ち込んでいただき、本人のいごちのよい場所作りの支援をおこなっている。	冷蔵庫、テレビ、机、椅子、仏壇、洋服かけ、家族の写真、生活用品など持ちこんで、落ち着いて過ごせるように支援してる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員はできないところの援助・支援を心がけねざらいながら自身でできることを維持または増やしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム やまとの里

作成日：平成 24年 6月 30日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変時や事故発生時に備えたマニュアルは作成しているものの、職員間でそれらに備えた食対応や応急手当に対しての定期的な訓練を行っていない。	マニュアルを確認して、職員間で定期的に初期対応や応急手当についての訓練を実施する。	マニュアルに添って急変時や事故発生時に備えた応急手当の方法や初期対応の方法についての訓練を実施する。 ①救急搬送要請(救急車) ②転倒・転落 ③窒息・誤嚥・誤飲 ④離苑 ⑤誤薬 ⑥吐血 ⑦発熱 ⑧やけど ⑨頭痛・腹痛 ⑩交通事故	1か月
2	14	研修は不定期で実施しているが、定期的な研修の機会を設けておらず、又、職員の外部研修への参加が少なく、同法人内や苑内での研修が殆どである。	定期的に研修を開催し、併せて職員のレベルアップを目指した勉強会を開催し、研修機会を確保する。職員の外部研修への参加機会を設ける。内部研修に外部からの講師を招き、研修会を開催する。	毎月定期的に研修会を開き、職員の知識と技術向上に努め、職員が外部研修へ参加できるよう勤務調整を行い参加する。外部からの講師を招いた研修会も開く。	3か月
3	36	災害時対応マニュアルを作成し、年2回法人内で火災による避難訓練は実施しているが、マニュアルの中に当苑の防災拠点(避難場所)としての役割が盛り込まれておらず、訓練への地域住民の参加もない。	マニュアルに防災拠点としての役割を盛り込み、地域との連携、協力体制を構築する。	マニュアルを再作成し、運営推進会議等で民生委員を通し、当苑が災害時に防災拠点であることを地域に広め、地域との連携を図り、協力できる体制を作る。	6か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。